



記事中のスマヤバザル選手は朝青龍のお兄さんです。お父さんやお兄さんそろって来日していました。当時は朝青龍関は明德義塾高校の相撲部に在籍していたそうです。

# モンゴル相撲 おもしろ

モンゴル相撲は、チンギス・ハンの時代（13世紀）にはすでにあつたとされています。当時は兵士の体をモンゴル相撲によって鍛え、長い戦の旅に耐えられる体を作つたといわれています。

モンゴル国では、相撲は大変人気のあるスポーツです。今回来日するスマヤバザル選手の名前は、モンゴル国ではだれでも知っていて、新聞のスポーツ面に彼の趣味や誕生日、生活などの情報が載るほどです。

選手たちの衣装は、昔の兵士の帽子、ソダグ（ベスト）、シューダク（パンツ）、グトゥルス（ブーツ）の4種類です。ソダグとシューダクは、赤あるいは青の絹で作られていて、糸で飾りがほどこされています。

試合では、ザスールと呼ばれる2人の行司が、それぞれ選手につきまします。上位の選手につくザスールが、戦いの挑戦の謡（ツオル）を唱えたあと、選手の帽子をとり、選手は、日本の相撲でいう「シコ」のかわりに、両手を広げて鳥が飛ぶような動作をします。そして、がっぷり組んだ状態から試合が始まります。

モンゴル相撲の技には、日本の相

撲と共通するもの、レスリングの技と共通するものがあります。日本の相撲との大きな違いは、土俵がないため押し出しやつり出しといった技がないことです。また、のどわはルール違反で、相手の顔をはたくなどの行為はしません。

勝敗は、ひじ・ひざ・お尻のいずれかが先に地面についた方が負けです。日本とは異なり、手の平が地面についても負けにはなりません。また、ザスールが試合中に、選手に対してアドバイスしてもかまいません。勝者は両手を広げ、敗者を右の脇の下をくぐらせ、帽子をザスールから受け取ります。それから鷹（たか）の舞を舞いながら、トグと呼ばれる飾りのある旗印や国旗の周りを回ります。

区民まつりでは、10月18日（土）15時40分～17時、19日（日）14時～15時30分に板橋一中体育館で行います。



（写真撮影 宇佐美博幸）  
①試合前の選手とザスール（行司）  
②力と技の勝負



	◆和楽おどり(栗山村)	19日	13時30分から
	◆牛乳無料配布(2000人分)	19日	11時～12時と13時から
板橋一中体育館	◆郷土芸能	18日	13時30分～15時30分
	◆モンゴル相撲	19日	10時30分～13時30分
みどりのひろば (板橋一中陸上競技場)	◆植木市	18日	15時40分～17時
		19日	14時～15時30分
	◆植木市	18日	13時30分～18時
		19日	10時～16時
	◆異人全物産展	18日	いずれも13時30分～18時